

首都圏における本市出身女性による座談会の概要について

- 1 目的：本市から転出し、首都圏で生活している女性を集め、首都圏に移住した理由や人口増に向けた提案等のテーマについて、座談会形式で参加者の本音や考えを聞き出すことを目的とする。
- 2 開催日時：2015年6月27日（土）10:30～12:15
- 3 開催場所：「インタビュールーム浜松町」 東京都港区浜松町 1-11-6 吉和田ビル 4F
- 4 対象：4年制大学（大学院含む。）卒業後、首都圏に就職して3年程度の静岡市出身の女性5名程度。
当日の参加者：3名（C、D、E）
※当初、5名参加予定だったが、当日、2名（A、B）欠席

5 主な内容

(1) 首都圏に移住した理由

参加者3名のうち2名（女性C、女性D）は、大学進学時点で、首都圏の大学に進学している。女性Cは、幼い頃から東京への憧れがあり、大学進学時に静岡を出ることは当たり前と考えてる。

【ポイント】

東京に強い憧れをもつ価値観が存在している可能性がある。この価値観に反して、静岡に留まらせたり、Uターンさせることは容易ではないことが想定される。静岡へのUターン施策を打つうえで、ターゲット層を明確にしておくことが重要である。

女性Dは、比較的周りの友人の動向に共鳴する傾向があり、大学進学時点でも、周囲の友人が静岡を出るのが当たり前だったので、首都圏の大学に進学した。就職の際も、静岡に仲の良い友人が多いという理由で静岡の企業に就職している（結果、東京配属だったので東京に残ることになった）。いざ、東京で社会人生活を送ってみると、経済的にも余裕があり、仲間も広がり、結果的には現状に満足している状況。

【ポイント】

高校の進路指導において、意図的に地元に残ることを推奨することへの是非はあるが、静岡の大学の魅力や地元に残ることの利点をどのように伝えていくか、が重要である。

女性 E は、静岡の大学で保育士をめざしていた。私立の高校に進学したので、東京の大学に進学することに対し、経済的負担で親に遠慮があった。インターンで地元の保育園で働いていたため、そのまま静岡で就職するものと思っていたが、東京の法人組織が運営する保育園が大学学内で就職説明に出向いてきて、「株式会社が運営する保育園」に強く惹かれて、静岡を出て就職することを決断した。今の就職先を選んだ理由は、給料が静岡よりも高いことと、法人で規模が大きいので、同期がいるという点。静岡に、同じような保育園があったら、静岡に就職していたと思う、と述べている。

【ポイント】

大学学内に東京の企業が出向いて説明会を行ったことが、女性 E にとって大きな転機になっている。後述するが、就職情報の接点が受け身である学生(社会人)も多く、その層に対して地元企業が魅力的な情報を積極的に発信していくことの重要性が見える。

(2) 静岡市への想い

参加者は全員、静岡市に対し、総じて、悪い印象はもっていないという発言が多かった。若い女性らしく、具体的なショッピングセンターの名称もあがり、買い物の利便性も悪くないという意見があがっている。東京との比較という観点になった時に、遊びや買い物、レジャーにおける選択肢の狭さがネガティブ要素となって表出する傾向にある。帰省したときに感じるという静岡を象徴するキーワードとしては、「ゆっくり」「のんびり」といった単語が使われていた。地元に戻ろうかと思う時としては、「体調を崩したとき」「親が心配なとき」という発言があがっていた。また、そもそも地元での就職を検討していた女性 D の当初の動機は「静岡にある友人関係を大切にしたい」というものだった。

【ポイント】

静岡市への好意的な感情はあり、静岡市の良さは、通常、発信されている要素と大きな相違は無かった。「家族」や「友人」とのつながりの基地となる大切な場所であるという想いも重視されている。

(3) 静岡市の人口増加に向けての提言

①子育てにやさしい環境の訴求

参加者は全員、結婚前の女性だが、子育てに関しては、各々の考えをもっている。女性 C は、もともと東京志向が強いので、東京で子育てして多くの情報に触れさせたいと考えている。女性 D と E は、静岡で子育てしたいと発言している。子供らしい子供に育ちそう、自分が通った高校に子供が通ってくれたらうれしい、自然が豊かな環境で、お散歩や公園遊びなども安心、といった意見があがっていた。

【ポイント】

今は東京が魅力的だと感じている女性DとEも、子育てという切り口では静岡に大きな魅力を感じていることは重要な要素。安心して子育てができる環境であることや、子育て支援に関する具体的な情報などを、Uターンの訴求ポイントとして、今以上に発信していくことは有効と考えられる。

②学生のUターン就職における手間の軽減支援

新卒の就職活動時に、始めから静岡に戻ることを決めている層よりも「静岡に戻ることも選択肢にあって、迷っている層」が実際には多いという意見が出ている。加えて、「静岡に限らず漠然と地方活性という視点で地方に目が向いている層」もいるという意見も出た。それらの層は、絶対に静岡という必然性が高くないので、より、静岡の企業と接点をもちやすくする、就職活動にかかる手間の軽減を支援する必要性が高いという意見が出ていた。

【ポイント】

現状も静岡市で企画・実施されている東京の学内での合同企業説明会が、静岡市の企業単体ではなく、いくつかの地方企業が合同で開催する企画に仕立てられると上記のような要望に対応できる可能性が高まる。また、静岡市でUターン就職希望の学生を集める合同企業説明会などを行政主導で開催する場合、Uターン学生に対し、交通費の支給支援をしたり、宿泊費や宿泊場所の支給支援をするといった工夫は、有効そうである。また、合同企業面談会に参画する企業に対し、面談・面接プロセスを、合同企業説明会の日程前後に集中させるような調整ができると、静岡に戻ったタイミングで、一気に静岡での就職活動が進められるので、Uターンを視野に入れた学生にとっては大きな手間の軽減になる。

以上